

pHを計ってみよう



ムラサキイモの色の变化で水溶液のpHを調べました赤くなったり、青くなったり？



齋藤知事とキャスターの草野満代さんの対談がありました



サインペンの色を分けてみよう

インクを水でにじませると、いろいろな色ができましたみんな、アーティスト！

エコライフやまがた'05

国、県の施策から県内企業の環境ビジネス、自治体や住民団体の取組まで、環境分野の「いま」を展示紹介するイベント「エコライフやまがた'05」が10月29、30日に山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）で開かれました。当センターも参加し、身近なところから環境や科学について楽しみつつ学んだり考えたりしてもらいました。



水生生物を見てみよう

川の中には、魚だけじゃなくて、こんな生き物もいるんだ！！



ビー玉コースター

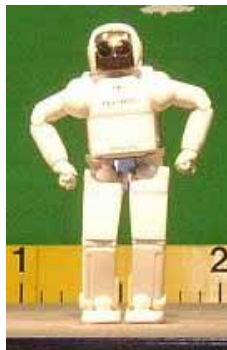
牛乳パックで作ったビー玉コースター子どもたちに囲まれ、大にぎわい！！ビー玉がどこからでてくるか、わかった？



展示コーナー

「こどもエコクラブ壁新聞」や「クマの気持ちを科学する」、「環境科学研究センター紹介」などの展示も行いました

センターの役割や取組などが、10月28日の山形新聞「環境特集」にも掲載されました！



会場には、アシモもやって来ました



虫を作ってみよう

木の枝や実を使って虫などを作りました。



こんな研究しています

突然ですが、ここで
クイズ!



ニホンツキノワグマの 里山への出没予測システムの構築

山形県には約 1500 頭のクマが生息しており、里山での人身・農林被害も多発しています。そこで「人的被害の予防」による共存をめざし、研究しています。

問題：下の写真に写っているのは何でしょう？答えを選んでね。

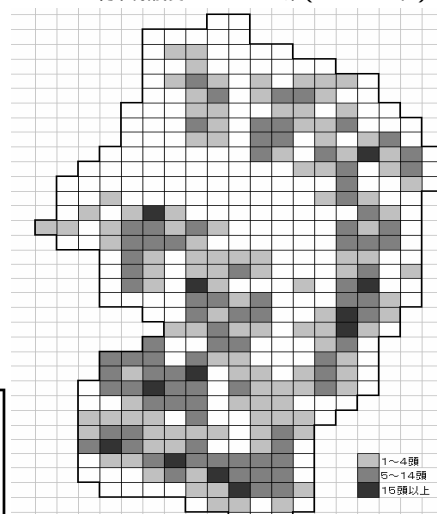


UFOと交信するための装置。
この中でサルを飼っている。
ブナの実を採取する網。

1. 県内におけるクマ出没パターンの解明
2. クマの里山への出没に関連している環境要因（ブナの豊凶等）の解明
3. 関連要因からクマの出没数を予測する方法の開発
4. クマ出没予報によりクマとの遭遇を軽減し、クマとの共存実現の第一歩とする

こたえは **!**
クマのエサとなるブナやナラの実を採取し、豊凶などから、クマの里山への出没を予測します。

クマが有害捕獲された地域 (H9~16年)



* 有害捕獲とは、クマの出没もしくは被害のため、捕獲許可を得て捕獲したものをいいます。

第4回生態学講座



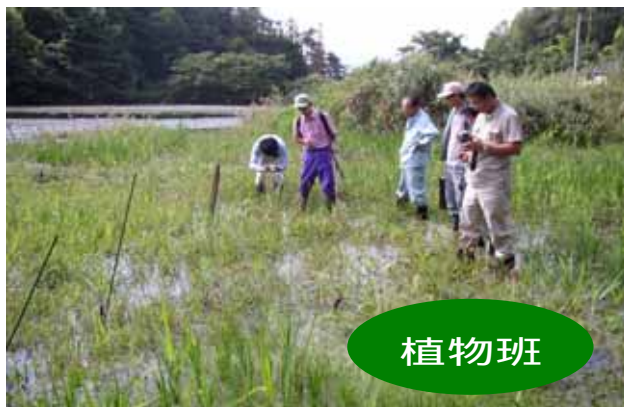
動物班は水辺のトンボを主に、種の見分け方や生息数をカウントする方法など具体的に体験実習を行いました。

この日観察されたトンボは、県のレッドデータブックで絶滅危惧種となっているコバネアオイトトンボのほか、マユタテアカネ、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ、マイコアカネ、キトンボ、ミヤマアカネが観察されました。

第4回生態学講座が9月30日、村山市内で、沢和浩氏、永幡嘉之氏を講師に招き、絶滅危惧生物種の約3割が生息するとされるため池などの湿地を対象に開講されました。午前中、実際の保全活動の紹介や保全活動に必要な基礎知識について講義を実施し、午後から、植物班と動物班に分かれ、現場実習を行いました。

植物班は、県のレッドデータブックで絶滅危惧種となっているヒシモドキの保全活動現場と、同様に絶滅危惧種となっているデンジソウの保全活動現場を訪問し、生息状況の調査を行いました。

この実習で観察された主な植物は、県のレッドデータブックで絶滅危惧種となっているヒシモドキ、デンジソウ、アブノメ、マルバノサウトウガラシのほか、アゼトウガラシ、タウコギが観察されました。



山形県環境科学研究センター

e-mail: kankyose@pref.yamagata.jp

村山市榎岡笛田三丁目2-1

: 0237-52-3124

編集：環境企画部

平成17年10月31日発行